

書塾の仲間たち

第 260 回

墨東（埼玉県さいたま市見沼区）



●書塾からひとこと●

私たちの会は、さいたま市のコミュニティセンターと当会代表の自宅マンションの集会所で開催しています。四歳の幼児から大人まで幅広い年齢の35名の方々がお稽古に来ています。

当会では、月刊「書写書道」誌の競書に加えて次の学習に取り組んでいます。
一、コミュニティセンター入り口の展示スペースに不定期で作品を展示

二、（三月）地域の文化祭りに大人と子どもとの作品を展示

三、（六月）埼玉県で開催される硬筆展覧会に向けた練習

四、（八月）小学校一年生～高校一年生が休みの宿題として取り組む、JA書道コンクールに向けた練習

五、（十一月）コミセン祭りでの大人の小作品展示（体验コーナーの「干支カレンダー作り」は毎年の恒例行事であり、大盛況となっています）

六、（十二月）東京都美術館に子どもたちの半紙作品を展示、学校の「埼玉版」書き初め練習

私は書道を通じて多くの人と出会うことができ、現在とても楽しく指導させていただいている。

会員の皆様は、誰もが「書道を学びたい」と自覚しており、大人の方は毎回、「書写書道」誌の課題を自宅でも学習して数多く持参されます。また硬筆を学ぶ子どもたちは家でも書いて、お稽古に臨んでくれます。筆で文字を書く時は準備運動として右回転、左回転、左右ギザギザの転折、名前の練習をしてから課題に移ります。

私は、大人は自身の個性を生かし、子どもには基礎を学び、将来「手書き文字」が苦手にならないようにと願い指導に努めています。高円宮杯や、毎年一月五日の日本武道館書初め大会への出場も是非体験させてあげたいと思って取り組んでおります。

墨東 天海 白雲
※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

僕は小学校二年生の時、お母さんにすすめられて、書写書道教室の体験に行きました。初めて筆を使って書いた「つ」を、先生に「勢いが良い、上手に書けたね」と褒めていただきました。とても嬉しくなって、「もっともっと上手に字が書けるようになりたい!」と教室に通うことにしました。レッスンでは硬筆、毛筆の順に練習します。短い時間の中でも良い作品が書けるように、毎回本番のつもりで集中して書きます。姿勢や鉛筆、筆の持ち方が良いと基本線がスマーズに書けます。納得できる文字を書くには、基本が大切なのだと気がつきました。もっと上手に書くために、先生には何度もアドバイスをいただいています。

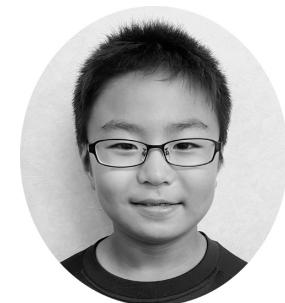
三年生では新聞社の書き初めコンクールで上位の賞をもらい、授賞式に出席しました。家族と教室の先生もいっしょに喜んでくれたことがとても嬉しかったです。また、僕よりも上位の作品を見ることで、どうすればもっときれいに書けるだろうと考えるようになりました。もっと太く、力強く書けるようになりたい、新しい目標もできました。

四年生になり、学校の授業で書いた作品が入賞し、集会で校長先生から賞状をいただきました。東京都美術館での大会でも優秀賞をいただき、いつそう自信が持てるようになりました。

僕は思い通りの文字が書けるように集中している時間が好きです。書道を始めた時にもう認定証や賞状は僕の大切な宝物です。これからもいっぱい練習をして、最高の賞をいただけるように努力します。

小四 太田 千駿 作品

静岡県浜松市立内野小学校四年 太田 千駿



私と書写書道 第260回

私は幼稚園の年中の時、書道を始めました。七夕に書いた「字がじょうずになりますように」という短冊を見た母が、書写書道教室をすすめてくれたことがきっかけでした。

幼稚園のころはレッスンの一時間を座っていられず、集中して字を書くことができませんでした。当時年中だった私には、一回のレッスンで硬筆と毛筆の二種類を書くことは難しく、硬筆を集中する日と、毛筆を集中する日と分けて少しずつ練習してきました。

学年が上がるにつれて、一回の授業で硬筆・毛筆両方を書けるようになりました。これまでの努力が実り、以前よりもずっと早く、上手に書けるようになりました。学校の授業でもお友達や先生からも褒めてもらえるようになり、そのころから、いろいろな大会に出品をするようになりました。レッスンのたびに先生からたくさんアドバイスをいただいて、自分の思うような文字を書けるようになり、結果も出るようになりました。

今、私の一番の目標は東京都の大会に出品して四年連続で大賞をいたぐことです。東京で行われる表彰式へ来年も夏休みのご褒美として行けるように、今から目標を立てて頑張っています。

小五 河田 羽美 成果

静岡県浜松市立内野小学校五年 河田 羽美

